New Products Review!

これは買い!?
気になる新製品をいち早くテストする!

モデムを共有する手軽な無線ネットワーク
シンフォニー コードレスシリーズ WN-S/560、WN-S/PCI、PCWN-S

コンパクトで軽快、ハニカム432万画素3倍ズーム
FinePix4700Z

マクロに強い! レンズ回転機構を搭載した334万画素3倍ズーム
COOLPIX990

ドコモ専用、デジタルカメラを搭載したメール端末
キャメッセプチ

片手で入力できるドコモの携帯電話用キーボード
パクティ

MP3対応のカーオーディオシステム
デジタルハイブリッド コンポーネント「919」シリーズ Z919、D919

世界初の腕時計型携帯MP3プレイヤー
リストオーディオプレーヤー WMP-1V

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

モデムを共有する手軽な無線ネットワーク

シンフォニーコードレスシリーズ WN-S/560、WN-S/PCI、PCWN-S

Check!

モデムをワイヤレスで共有してインターネットに接続 FAXモデムも共有できる 初心者もOKの簡単設定ウィザード

発売元	株式会社アイ・オー・データ機器
価格	WN-S/560：39,800円（税別） WN-S/PCI：22,000円（税別） PCWN-S：26,000円（税別）
問合せ先	076-260-1024（金沢） 03-5256-1024（東京） 06-4705-5544（大阪）
本体寸法	WN-S/560： W120mm×D68mm×H216mm
重量	WN-S/560：300g
付属品	モジュラーケーブル（1.8メートル）、ACアダプタ、マニュアル、他
発売日	2000年2月28日

Jump www.iodata.co.jp

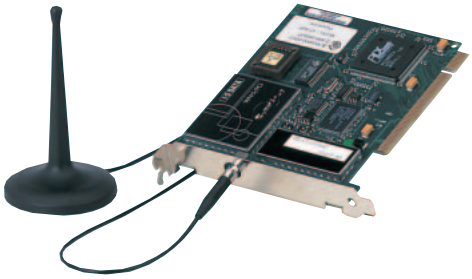
アイ・オー・データのコードレスネットワーク製品「シンフォニー」は、無線ネットワークの専業メーカーProxim社のOEM製品である。米国でも評価の高いこの製品が、ついに日本に上陸した。

「モデム共有」がミソの無線ネットワーク

シンフォニーシリーズは、PCカードタイプの「PCWN-S」とPCIアダプターの「WN-S/PCI」、コードレスモデムの「WN-S/560」（最大通信速度は56Kbps）からなる無線ネットワーク製品だ。無線LANでよく使われている2.4GHz帯のFH-SS（周波数ホッピング・スペクトラム拡散方式）を採用し、最大1.6Mbpsの転送が可能だ。対応するOSは、ウィンドウズ95/98で、最大10台のシンフォニーシリーズを接続できる。シンフォニーを使った無線ネットワークのスタイルとしては、コードレスモデムを共有したネットワーク、PCに接続された一般のモデムを共有するネットワーク、モデムは共有せずプリンターやファイルだけを共有するネットワークの3つが考えられる。

無線LANではなく、あえて「コードレスネットワーク」と呼ぶのは、10BASE-Tなどの有線LANとのブリッジ機能がないからだ。TCP/IPをサポートし、ファイルやプリンターの共有もできるという点では無線LANと変わらないが、インターネットへのアクセスは、あくまでもモデムを使って接続するというのが前提。なお、ターミナルアダプタの共有機能についてはまだ動作確認中とのことだ。

したがって、「モデムをコードレスにして、ファイルやプリンターが共有できる機能をプラスした製品」と見たほうがいいかもしれない。たとえば、これからインターネットを始めようと思っているが、電話線のモジュラージャックが遠くて困っている人、あるいは、2台目のパソコンを離れた場所に置きたいと考えている人にオススメの製品だ。



WN-S/560（右上）には表示ランプが3つ、回線用のLINEジャック、TELジャックなどがある。WN-S／PCI（下）にはアンテナが付属。PCWN-S（左上）は突起部も小さくコンパクト。低消費電力設計のところもニクイ。

試用レポート

初心者でも手軽にワイヤレス環境を構築できる

最初に「コンポーザー」というソフトを使ってネットワークの設定を行う。IPアドレスやインターネットへの接続の設定などは、PC内部の設定を自動で参照してくれるので、スムーズに進む。アップルのAirMacベースステーションに非常によく似たスタイルだ。他の無線LAN製品では、ここまでのお任せ設定は不可能だろう。この設定の簡単さこそ、まさにモデム共有に特化したこの製品の強みと言える。これなら初心者でも何とかクリアーできるレベルだと感じた。コンポーザーで設定した後は、「マエストロ」というソフトでネットワークを管理することになる。「家の中をずるずるケーブルを引き回したくない」「モデムやプリンターの共有を簡単に実現したい」という初心者ユーザーにとっては、シンフォニーはその手軽さにおいてピカイチの製品だ。ただし、柔軟性や拡張性を求めるパワーユーザーは無線LANを選んだほうがいいだろう。（梅垣まさひろ）

ネットワーク設定ユーティリティー「マエストロ」でインターネットに接続した状態を確認。このユーティリティーを使うと、「コンポーザー」ではできなかった細かな項目も設定できる。初心者は、「コンポーザー」の設定だけでOKだ。

10BASE-T（テンベース・ティー）：ツイストペアケーブルを使ったイーサネット規格の1つで、通信速度は10Mbps。ハブを中心にスター型でネットワークを構成する。機器の増減やレイアウトの変更に柔軟に対応できるため、現在のLANの主流となっている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

コンパクトで軽快、ハニカム432万画素3倍ズーム

FinePix4700Z

発売元	富士写真フイルム株式会社
価格	128,000円（税別）
問合せ先	03-3406-2981
本体寸法	W78mm×D32.9mm×H97.5mm
重量	255g
付属品	単3形ニッケル水素電池、充電器、A／V専用ケーブル、マニュアル、他
発売日	2000年3月1日

URL www.fujifilm.co.jp

Check!

独自のスーパーCCDハニカムで432万画素出力を実現
手のひらサイズのスタイリッシュボディーに3倍ズーム
最長80秒の音声付きMotion JPEG動画が撮影可能

ストロボがポップアップ式に変更。電源は単3形ニッケル水素電池またはニッカド充電池を2本使用。

背面の操作部が大幅に改良され、使いやすさがアップ。液晶モニターも明るく、スルー画も鮮明になっている。

富士写真フイルムから、スタイリッシュなフォルムのFinePix4700Zが発売された。新開発の「スーパーCCDハニカム」を搭載し、432万画素出力を得られるのが特徴だ。また、高速処理を実現するASICの搭載や画像処理回路のチューニングにより、レスポンスも飛躍的に向上し、ISO感度も200～800と撮影性能が大幅にアップしている。

FinePix4700Zは240万画素モデル？

FinePix4700Zは、ハニカム配列の240万画素（有効216万画素）CCDを搭載した縦型フォルムのデジタルカメラだ。ハニカム配列とは、従来のCCDの正方格子配列（碁盤の目状）を45度回転させ、千鳥格子状にジグザクに配列したもの。富士写真フイルムでは、このハニカム配列のCCDを「スーパーCCDハニカム」と呼んでいる。

スーパーCCDハニカムは、画素が千鳥格子状に配列されているので、そのままでは画像にならない。そこで、演算処理により中間のバーチャル画素を生成し、有効画素数の2倍の正方格子配列を作り出している。4700Zの宣伝文句にうたわれている「ハニカム432万画素」というのは、このバーチャル画素を含んだ表記だ。ちなみに、富士フイルムでは、「スーパーCCDハニカム」は、従来型CCDに比べ約1.6倍の実効解像度が得られるとしており、約350万画素に相当すると説明している。

カメラまかせのオート撮影でも、ほとんど不満のない結果が得られるのが魅力。発色も鮮やかで、階調も軟らかいが、しっかりと画像にメリハリがあるのは見事だ。

試用レポート

コンパクトで軽快、色や階調もキレイ

「ハニカム432万画素」という表記が物議を醸している4700Zだが、4700Zの魅力は、画素数や解像度ではなく、色と階調の良さだ。シーン自動認識AWB（オートホワイトバランス）とAE（自動露出）の効果で、シャッターを押すだけで非常に色鮮やかな写真が撮れる。特に、肌色の美しさは圧巻で、ストロボ撮影時でも不自然に青みがかることがない。また、最高画質モードでも2～3秒間隔でシャッターを切り続けることができ、レスポンスも軽快そのものだ。

スーパーCCDハニカムの特徴の1つにS/N比が良いことが挙げられるが、手ブレを防ぐために感度をISO200と高くしたため、アドバンテージを使い果たしてしまった感じだ。解像感はちょっと甘く、細部がつぶれがちでソフトな描写だが、ポートレート撮影には、これくらいの描写力のほうが肌荒れが目立たずハッピーな結果が得られるだろう。（伊達淳一）

これまでの同シリーズではほとんど夜景が撮れなかったが、4700Zは夜景モードにすれば3秒までのスローシャッターが切れる。オートフォーカスが利かない場合はマニュアルフォーカスに切り換えることも可。

CCD（シー・シー・ディー／Charge Coupled Devices）：光の強さに応じて蓄電容量が変化する半導体素子の集合体。日本語では電荷結合素子と訳される。デジタルカメラの「何万画素」という数値はこの素子の数を表している。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

マクロに強い！レンズ回転機構を搭載した334万画素3倍ズーム

COOLPIX990

Check!

300万画素クラスで唯一のレンズ回転モデル
5つの測距点からピントを合わせるマルチエリアオートフォーカス機能
レンズ前2cmまで寄れるマクロ撮影能力

発売元	株式会社ニコン
価格	125,000円（税別）
問合せ先	03-3775-2266
本体寸法	W149mm×D38mm×H79mm
重量	390g
付属品	コンパクトフラッシュカード（8MB）、ビデオケーブル、単3形アルカリ乾電池、マニュアル、他
発売日	2000年4月下旬

Jump www.nikon.co.jp

ニコンCOOLPIX990は、300万画素クラスで唯一レンズ部が回転するモデルだ。昨年、品薄騒ぎにまでなったCOOLPIX950の上位機種にあたり、950ユーザーから寄せられた意見や要望を積極的に取り入れ、なおかつ他機種にはない新機能を盛り込んだ意欲作だ（なお、今回のレビューは試作機によって行った）。

デジタルカメラ初のマルチエリアAFを搭載

COOLPIX990は、他機種にはない機能や特長を数多く備えている。

まず、5つの測距点からピントを合わせるマルチエリアオートフォーカス機能。被写体が画面中央にない場合でも、ピントが中抜けしない写真を撮影できる。特に、「M-RECモード」では、背面の十字キーで5つのフォーカスエリアを選択したり、自動的に一番手前の被写体にピントを合わせたりすることもできる。ピーキング機能によって、どの部分にピントが合っているかを液晶モニターで確認できるのも便利だ。

マクロ撮影に強いという950の特長もそのまま受け継ぎ、ズームのミドルポジションではレンズ前2cmまで被写体に近寄れる。

さらに、液晶モニターで画像のヒストグラムが見られたり、白飛びを点滅表示で知らせてくれたりするので、露出が厳密にコントロールできる。コンパクトフラッシュカード（CFカード）に、撮影の情報がテキストファイルとして保存されるのも、マニア泣かせの機能だ。

なお、3倍テレコンバータレンズなど、オプションレンズも充実しており、スライドを複写するためのスライドコピーアダプターやリモートコードも近日中に発売される。

ボディーカラーは完全な黒ではなく、わずかにグレーがかっている。グリップ部のアクセントは紫色に変わり、精悍な感じのする950に比べると、ちょっとずんぐりした印象だ。

背面操作部には、コマンドダイアルと十字キーが新設されている。再生時にコマンドダイアルを回すと、撮影画像の情報やヒストグラムを表示することができる。

試用レポート

COOLPIX950での不満が解消

COOLPIX990のフォルムは基本的に950と同じだが、CFカードの挿入口をグリップ側面に移動したため、グリップが少々大きくなっている。三脚にカメラを取り付けたまま、CFカードが交換できるように考慮した結果だ。

また、950ではズームレバーがメニュー選択に使われていたが、990では新たにコマンドダイヤルと十字キーが設けられ、この2つを使って操作する。950に慣れていると最初はちょっと戸惑うが、撮影画面にメニューが透けて表示されるので、ホワイトバランスや露出補正の効果を確認できるのは便利だ。

各種レスポンスは、950と同等以上に高速化が図られているというが、最高画質の「FINEモード」で撮影すると、2コマでバッファーがいっぱいになり、しばらく待たされた。オリンパスC-3030ZOOMに比べると軽快さに欠けるのが惜しいが、中間色を寝かせた軟らかな階調で、描写力では一歩も引けを取っていない。豊富なオプションレンズが使えるなど、990ならではのアドバンテージもあり、なかなか魅力的な機種だと言える。（伊達淳一）

レンズ部がクルッと回転するので、さまざまなアングルの撮影も液晶モニターを見ながら行える。背景に写っているのは実は筆者だったりするが、こうした撮影もお手のものだ。

ズームのミドルポジションでは、レンズ前2cmまで被写体に近づけるが、このように遠近が混在するシーンでは背景にピントが合いやすい。そんな場合は徐々にカメラを被写体に近づけていくとうまくいく。

マクロ撮影：被写体を近距離から撮影すること。接写。最近のズーム機は、通常モードでは80cmまでしか寄れないものが多いが、マクロモードに切り替えると至近距離から被写体を撮影できる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

発売元	NTT移動通信網株式会社
価格	19,800円（税別）
問合せ先	0120-177-360
本体寸法	W69mm×D109mm×H33mm
重量	170g
付属品	マニュアル、他
発売日	2000年2月1日

Jump www.nttdocomo.co.jp

カラーの液晶画面は非常に明るくて見やすい。本体向かって左側面にシャッターボタンがある。

携帯電話と接続したところ。

本体の背面。接続用のコネクターと、ペンの収納口、スマートメディアのスロットがある。

ドコモ専用、デジタルカメラを搭載したメール端末

キャメッセプチ

Check!

デジカメで撮った写真をそのままメールで送れる プリクラ感覚で撮影、写真の編集も楽しめる 見やすいカラー液晶画面を採用

数多くのメール端末を発表してきたNTTドコモが、一風変わった製品を送りこんできた。「キャメッセプチ」は、11万画素のデジタルカメラを内蔵したメール端末。携帯電話に接続し、デジカメで撮影した写真を簡単にメールで送れる。キャメッセプチ同士はもちろんのこと、PCとも手軽に写真のやりとりが楽しめる製品だ。

持ち歩けるプリクラ撮影端末

写真を見てもらえればわかるように完全に女性をターゲットとした製品だ。背面にはポケットボードと同じように接続用のコネクターが用意されているため、ケーブル類を持ち歩く必要がない。

ボタン類は電源ボタンとデジカメ用のシャッターボタンだけ。操作は、基本的に液晶部分のタッチパネルを専用ペンでタッチして行うことになる。このペンだが、いくら女性向けとは言っても、少々短すぎるように思われた。指でタッチしたほうが効率がよいだろう。

カメラのレンズは液晶画面の上部にあり、撮影の時は液晶画面がモニターになる。レンズは自分のほうを向いており、自分の顔を撮るように作られている。つまり、普通のデジカメとして使うよりも、自分専用のプリクラ用カメラといった感じだ。撮影した画像には、ペンを利用してメッセージを書き込みしたり、フレーム（10種類＋自作）を付けられる。

写真の撮影例。ほかにもいろいろなエフェクトが用意されている。

メールの転送には、ドコモ独自のスナップメールというプロトコルを使用しており、これを使うことで、画像データのサイズを30％抑えられるという。なお、データは基本的には本体内蔵のメモリーに保存することになるが、スマートメディアも利用できるように、スロットが備わっている。

試用レポート

プリクラ用デジカメにメール機能が付いた

実際に使ってみると、操作方法にかなり違和感を覚えた。スムーズに行えるのは、おそらくデジカメで自分の顔を撮影するときのみで、それ以外の操作、特にメールの作成にはかなり苦労した。それほど大きくない液晶画面に小さなペンで文章を書くのは、実用的とは言えないだろう。せめて、シャッターボタンを他のボタンとしても使えるようにするなどの工夫が欲しかった。

デジカメの画像に関しては、一般的なデジカメとして考えると画質に納得できないものがあるが、プリクラだと思えば十分なクオリティーだ。メール端末として発売されたキャメッセプチだが、むしろ小さくてお手軽なプリクラ用デジカメにメール機能が付いた物と捉えたほうがいいだろう。

また、残念ながら、現時点でスナップメールに対応しているプロバイダーは「リトルアンジュ」のみ。つまり、キャメッセプチを利用するには、必然的に「リトルアンジュ」Jump www.anges.ne.jp と契約しなければならない。「リトルアンジュ」の料金体系は、入会金が980円で会費は月払いの場合は500円、年払いなら4,800円となっている。（恣岡 悄）

プロトコル：コンピュータが通信を行う際の手順や約束事。物理的な接続方法から通信ソフト同士の具体的なデータのやり取り方法まで、通信の階層、目的ごとにさまざまなプロトコルがある。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

片手で入力できるドコモの携帯電話用キーボード

パクティ

Check!

独自の入力方式を採用、片手で入力できる ブラウザー機能も搭載 コンパクトなボディーで持ち歩くのに便利

発売元	NTT移動通信網株式会社
価格	16,300円（税別）
問合せ先	0120-177-360
本体寸法	W82.5mm×D82.5mm×H32mm
重量	135g
付属品	マニュアル、他
発売日	2000年3月3日

Jump www.nttdocomo.co.jp

携帯電話でメールを送るとき、文字入力に煩わしさを感じたことは誰しも覚えがあるだろう。今回ドコモが発表したこの製品は、入力方法を根底から変えることによって、この問題を解決しようとしている。

文字入力の新しいカタチを提案

「パクティ」の売りは、なんといっても独自の入力方式。この入力方法は、ミサワホームが片手で入力できるように開発した「CUT Key」をベースに、ドコモとミサワホームが共同で開発したものだ。CUT Keyでは、母音と子音を分けて入力することで、従来よりもタイプ数を大幅に減らすことに成功している。たとえば、「おはよう」と入力する場合、携帯電話なら12回、ポケベルは8回タイプしなければならないが、パクティなら6回で済む。この入力方法に慣れるためのキータッチ練習ゲームも付属している。

本体のデザインはなかなか秀逸と言える。形状は化粧用品のコンパクトのようで、いわゆるクラムシェルタイプになっている。特に、蓋と同じようにキーボードを持ち上げることができ、その下に携帯電話用のコネクターケーブルが収納できるのは、見た目にもスマートだし、携帯にも便利だ。また、液晶画面はモノクロではあるものの、解像度がかなり高いことが窺える。何と言っても本体が手のひら大の大きさゆえ、必然的に画面の大きさも限られてくる。その分を解像度の高さで補っているといったところだ。しかしその反面、文字が小さくてかなり見づらいのは問題だ。

さらに、「文字中心でページの総データ量が8Kバイトまで」という制限はあるものの、ブラウザー機能が搭載されている点にも注目したい。

試用レポート

とりあえず慣れることから始めよう

「ワンハンド入力」をアピールした製品だが、実際に使ってみると、片手だけで入力するのは正直言って難しい。どんなにコンパクトなスタイルでも、やはり片手には余る。結局、文字入力自体は右手で行い、文字種の変更や方向キーのコントロールなどは左手で行うといった具合に両手で使うほうが扱いやすい。

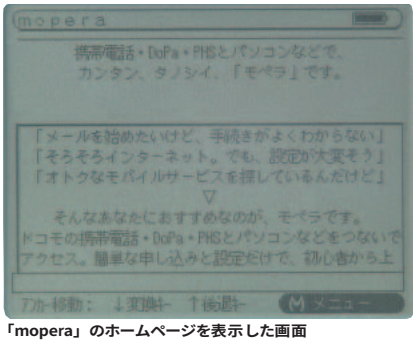
入力方式自体についても、慣れるまでは使いづらいとしか言えない。実際、試用の間では十分に習熟したとは言えず、快適な入力環境と感じられるまではいかなかった。既に携帯電話の入力方法に慣れた人にとって、この入力方式がどれほどメリットがあるのかは疑問だ。確かに、タイプ数は少なくなるのだが…。

携帯電話と接続したところ。

キーボードを持ち上げると、中に接続用のケーブルが収納されている。

液晶画面が小さいため、入力しているメールの文章を確認するのも辛い。ちなみに、メールはmopera POPメールや10円メールなどの、ドコモお約束のものだけでなく、通常のインターネットメールにも対応している。

ブラウザー機能については、右の写真を見てほしい。やはりこの小さい画面にブラウザー機能まで求めるのは、酷と言えないだろうか。表示できるデータの大きさが8Kバイトというのも実用的ではない。



「mopera」のホームページを表示した画面

さまざまな問題はあるものの、慣れを考慮すれば、新しいメール端末になる可能性も秘めている。入力方式の新しいスタイルを提案したという点では、非常に画期的な製品と言えるだろう。（恣岡 悄）

解像度：ディスプレイやプリンター、スキャナーなどの装置において、表示や印字、データをどれだけきめ細かく表示・記録できるかを示す数値。ディスプレイ装置の場合、画面に表示するドットの構成数で表す。

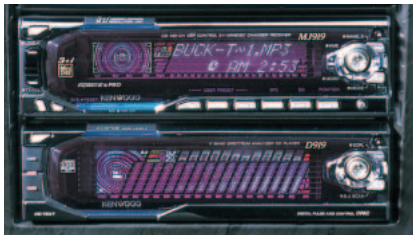
インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

MP3対応のカーオーディオシステム

デジタルハイブリッドコンポーネント「919」シリーズZ919、D919

発売元	株式会社ケンウッド
価格	Z919：60,000円（税別） D919：47,000円（税別）
問合せ先	03-3477-5335（東京） 06-6357-5335（大阪）
埋込寸法	W178mm×D160mm×H50mm
発売日	2000年3月中旬

Jump www.kenwoodcorp.com/jhome.html



上から「MJ919」（マルチコントロールMDチェンジャー・レシーバー）、「D919」（MP3対応CDプレイヤー）。D919の場合、別のフォルダーへ移動するためには、MJ919の十字キーで操作しなければならない。

実際に車に設置したところ。上から「LZ919」（タッチパネル6.5インチワイドインダッシュTV）、MJ919、D919となる。

ケンウッドから発売されたカーオーディオシステムの新シリーズ「919」。同シリーズのCDレシーバー「Z919」とCDプレイヤー「D919」の2機種には、業界ではじめてMP3デコーダーが搭載された。とうとう、車の中でもMP3を楽しむ時代の到来か？

アルバム10枚分が1枚のディスクに

ケンウッドの919シリーズには、7機種のコンポーネントが用意されているが、このうち、Z919とD919の2機種がMP3に対応している。なお、Z919は単体で音楽CDとMP3ファイルを再生できるが、D919にはアンプが内蔵されていないため、MJ919など他のレシーバーと組み合わせないと使用できない。多くのMP3プレイヤーは、データを記憶するメディアにメモリーカードを使う。これに対してZ919とD919は、メディアとしてCD-ROMやCD-R/RWを使うのが大きな特徴だ。拡張フォーマットを除くISO9660レベル1およびレベル2に対応しており、フォルダーには8階層までの階層構造を持たせることができる。

たとえば、音声ファイルを標準的なビットレートである128KbpsでMP3形式に変換した場合、演奏時間が約5分の曲は約5MBの大きさになる。そこで、容量650MBのCD-R/RWにこの条件でMP3ファイルを記録すると、約120曲を収録できることになる。これは、アルバム10枚分にも相当する。音質を犠牲にしてもっと低いビットレートで変換すれば、もっとたくさんの曲を記録することもできる。ただし、919シリーズにはMP3変換ソフトは付属していないので、別途、変換ソフトを入手する必要がある。

Check!

CD-R/RW1枚に約120曲のMP3ファイルを記録
ISO9660レベル1および2フォーマットのCD-R/RWに対応
レシーバー、リモコン、タッチパネルでコントロール

試用レポート

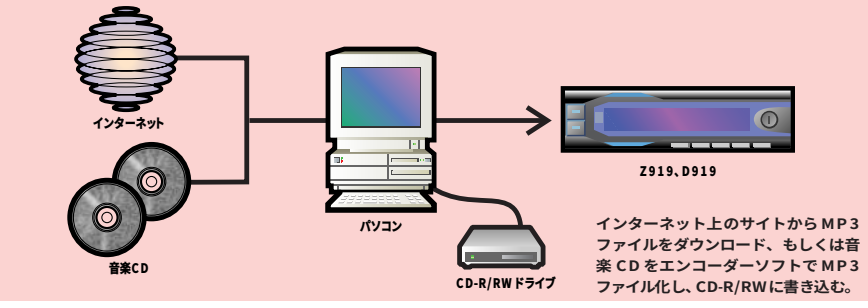
MP3は長時間ドライブに最適

走行中の車内は、エンジンやエアコン、車外ノイズなど、さまざまな雑音に囲まれている。こうした環境で聴く限り、CDとの音質的な差はほとんど感じない。振動する車内での使用を考えると、記憶メディアは駆動部分のないメモリーカードが理想だ。が、メモリーカードは、64MBタイプでも再生時間はせいぜい1時間。価格も高い。それに対してCD-Rは価格も安く、1枚で約60時間連続再生できる。919シリーズは、少なくとも現状では長時間ドライブに最適なシステムと言えそうだ。

再生、停止や同一フォルダー内の曲の選択といった操作は、レシーバー本体のほか、付属のリモコンやオプションのタッチパネル付きテレビLZ919でもできる。ただし、別のフォルダーへの移動は、Z919（D919の場合は接続したレシーバー）の十字キーでしかできない。これは、特に運転中の場合を考えるとかなり不便だろう。次期バージョンでの改善を期待したいところだ。また、演奏者などの情報を表示するID3タグやm3uプレイリストへの対応も期待したい。

919シリーズは、MP3人気とCD-R/RWの普及がもたらしたカーオーディオの新システムだ。何はともあれ、MP3がカーオーディオという新しい分野を開拓した記念すべき製品と言えるだろう。（藪 暁彦）

MP3ファイルの作り方



ID3タグ：MP3ファイルの最後128バイトに付加された、楽曲のタイトルやジャンルなどの付属文字情報のこと。ID3タグに対応したプレイヤーでID3タグ情報の表示・編集ができる。

インターネットマガジン/株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

世界初の腕時計型携帯MP3プレイヤー

リストオーディオプレーヤー WMP-1V

Check!

MP3形式の音楽ファイルを内蔵32MB MMCに記録
USB端子に接続してパソコンからデータを転送
最大15コマのドットアニメーション再生機能

発売元	カシオ計算機株式会社
価格	37,000円（税別）
問合せ先	03-5334-4828
記録媒体	内蔵32MB マルチメディアカード
重量	70g
付属品	ステレオイヤホン、ダウンロード用PCリンクソフト、ドットキャラクター作成ソフト、通信・充電用インターフェイス、ACアダプター、USBケーブル、他
発売日	2000年3月30日

Jump www.casio.co.jp

ディスプレイ上部にはトラック番号と演奏経過時間、下部には曲名とアーティスト名、アルバム名、またはアニメーションが表示される。

カシオから発売された「リストオーディオプレーヤーWMP-1V」は、世界初の腕時計型MP3プレイヤー。本体には32MBマルチメディアカード（MMC）が内蔵され、フル充電で約4時間連続して再生できる。音楽に合わせて動くアニメーションも楽しい、新しい携帯MP3プレイヤーの誕生だ。

標準的なビットレートで演奏時間は約33分

国内メーカーからも続々と登場し始めたMP3プレイヤーだが、この「リストオーディオプレーヤー」は腕時計型なのがユニークだ。本体には32MBのMMCが内蔵され、標準的なビットレートである128Kbpsで変換した場合、約33分のMP3ファイルを記録できる。バッテリーは充電式で、約4時間の連続再生が可能だ。

順番に再生するノーマルモード以外に、ランダム再生などのさまざまなモードがある。ID3タグもサポートされ、再生中はディスプレイ左下部分に曲のタイトル、アーティスト名とアルバム名が1文字ずつ表示される。さらに、曲調に合わせて動くドットアニメーション「モーショングラフィック」も表示でき、付属のソフト「Dance Producer」を使えばオリジナルのアニメーションも作成できる。

パソコンからデータを転送するには、右中写真のように、付属のインターフェイスを使用する。ここにプレイヤーを取り付けてパソコンのUSBポートと接続し、「リンクソフト」でファイルをダウンロード。ただし、リンクソフトでは、プレイヤーからパソコンへアップロードすることはできない。

試用レポート

シンプルで分かりやすいインターフェイス

ディスプレイの右下に取り付けられた大きめのボタンが、再生／停止スイッチだ。これを取り囲むように配置された2つのボタンで、次曲選択／早送り、前曲選択／巻戻しを行う。また、ボリュームは、左下の2つのボタンで調節する。

リストオーディオプレーヤーは5段階で音質を切り替えられるが、この設定もボリュームボタンで行う。わずか6つのボタンですべての操作ができ、これら一連の操作が実に分かりやすい。

付属のリンクソフトの操作も簡単だ。ウィンドウの右上には本体に保存されている曲が表示され、左上にはPC内のMP3ファイルが表示される。ここから曲を選んで矢印ボタンをクリックし、「UPLOAD」ボタンをクリックすればダウンロードが始まる。演奏時間約4分の4MBほどのファイルを、約90秒でダウンロードできる。

音質については、MP3特有のドンシャリ感をあまり感じさせず、中音域も聞きやすい。販売されているMP3プレイヤーの中では、上質の部類に入る。

気になるのはメモリーの容量だ。現在、MMCは最大で32MBのタイプしかないので仕方がないとは言えるが、アルバム1枚分すら記録できないのは辛い。その点を除けば、腕時計としても機能するこのリストオーディオプレーヤーは、購入の選択肢となりうるできだ。（藪 暁彦）

パソコンからMP3ファイルをダウンロードするときは、充電アダプター兼用のインターフェイスに取り付ける。

ファイル転送用のリンクソフト。曲順の変更や削除もできる。

マルチメディアカード：SaSiemens社とSanDisk社が共同開発したメモリカードの規格。現在は16MBと32MBの製品が主流で、仕様上は512MBまで拡張可能となっている。SanDisk社は1999年に、松下電器産業・東芝と共同で、MMCに著作権保護機能を付加した携帯音楽プレーヤー向けのメモリカード「SDカード」を開発した。

インターネットマガジン／株式会社インプレス
Copyright Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.